



ただら

第23号
(2024年7月発行)

島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦

<http://oushimaned.main.jp>

E-mail: info@oushimaned.main.jp



第12回通常総会を開催しました

第12回通常総会は2024年4月27日(土)15:15から学習センター4階第2講義室において開催しました。総会には学習センター所長、客員教授、学友会会長を来賓に迎え会員36人(委任状25を含む)が出席しての開催となりました。

今総会の主たる任務は①2023年度の活動報告、②2023年度の決算・監査報告、③2024年度活動案、④2024年度予算案です。

総会に先立ち恒例となりました第17回市民公開講座「次はあなたかも!狙われる特殊詐欺」—県内での被害事例とその対策—について、講師に松江警察署生活安全課係長堀江隼平警部補を迎えての講演となり、事前に地元マスコミ、施設へのチラシ掲示を行った結果、会員、学生、市民の皆さんが来られ、予定の参加者を確保して開催された。講座には地元マスコミが取材に来られ、2日後の30日の紙面に大きく取り上げられ、放送大学と同窓会について報道されました。

講演は①特殊詐欺の概要と発生状況、②主な詐欺の手口と防止方法、③松江市内での発生状況、④SNS型投資・ロマンス詐欺についてでした。松江市内では各料金請求詐欺、還付金詐欺、オレオレ詐欺、預貯金詐欺が発生しており、被害に遭う前に誰かに相談して、最寄りの警察署に相談してくださいと呼びかけられました。

なぜ同窓会が必要なのか！

会長 竹下靖彦



暑中お見舞い申し上げます。皆さまにはお変わりなきことと拝察いたします。昨年度は皆さまにはコロナ禍が2類から5類へと軽減される中にもかかわらずご協力いただき、誠にありがとうございました。

昨年度の同窓会活動は、9年に1度当番が回ってきます、同窓会中国四国地区交流会を島根が担当となり、初めての当番県となり、歴史と文化の街松江らしい“おもてなし”をと役員と会員の実行委員会にて、取り組みました。前号第22号にて当日の様様を詳しくご報告しております通り、放送大学学長、連合会会長の来松を得て大盛況に終わることができました。

その反面、肝心の同窓会活動が広範囲に実施することができずに終わりましたことを深くお詫び申し上げます。

さて、我が国の政治腐敗は昨年某政党機関紙にて暴かれた自民党派閥の裏金事件について、政治資金パーティー券収入不記載の裏金問題で、長年政権に安住していることから、法を守るべき国会議員は、憲法尊重擁護の義務、憲法第99条「憲法天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負う」が課されているにもかかわらず、この機に乗じて肝心の政治資金パーティーを含む企業・団体献金を温存し、政党が（政党交付金は税金）政党が議員個人に渡すつかみ金（かつての特定郵便局長に渡していた）ともいえる政策活動費を合法化、しかも「領収書公開は10年後公開」など改革どころか大改悪を図った。

昨年の総会記念の市民公開講座でマイナンバー制度の危険性について講演頂いたが、「改正マイナンバー法」が成立したが、マイナンバーとマイナンバーカードは別物で、登録は任意であり、日常持ち歩かないと宣伝していたが、偽造マイナンバーカードで機種変更され多額の被害発生や、医療機関窓口でのトラブルなどが多数発生していて、これも国民を危険にさらしている政治腐敗ではないでしょうか。

さて、学位記授与式、卒業を祝う会、アカデミックガウン着用で記念写真、社会貢献活動植林ボランティア、中四国地区交流会、山陰地区最大の若者への大交流会などに取り組みましたが、会員の皆さんへの直接のサービスが減少しました。

コロナも2類から5類へと緩和となり、多数で集うことや飲食を伴う会の開催も可能となりましたので、久方ぶりに親睦を深める取り組みを実践したいと考えています。

何卒ご支援ください。

自由について

島根学習センター
所長 出口 顕



評判になったデヴィッド・グレーバーの『負債論』の中で、自由についての以下のような記述がある。古代ローマでは「自由

であることは、友を作ること、約束を守ること、平等な共同体のなかで生きることを意味した」「定義上、自由であることは、それに付随する権利や責任とともに、市民共同体に根を下ろすことを意味したのだ」（『負債論』以文社、p306）。

これが興味深かったのはXでの次のような投稿を目にしたことがあったからだ。カリスマ的な歌手だった尾崎豊世代のこの投稿者（Xとしておく）にとって、自由とは「盗んだバイクで走り出す」ことだったが、今の若い世代にとって自由は積極的に勝ち取るものではなく、その先に何をしてもいい一面の曠野が広がっても、彼らは面倒だと感じるのだそうだ。

しかし古代ローマ人にとって、Xの言う自由は、少しも自由ではなく、他者に対するモラルと責任の放棄でしかないから市民であることを拒否し奴隷に身を落とすことに等しいと映るだろう。反対に「バイクを盗んで走り出さない」若者が、市民としての主体性と責任を果たしているなら、彼らの方が自由ということになるだろう。

Xは、「盗んだバイクで走り出す」のは「ただの犯罪じゃないか」という今の若い世代の発言を、危険を冒さない消極的な姿勢の表れと嘆く。しかしここに透けて見えるのは、上の世代が自分たちとは異なる価値観もつ下の世代を非難するおなじみの態度だ。自己或いは自己の属する文化の価値観を自明視し、異なる方向を向いた他者の文化を蔑視する態度を自文化中心主義（エスノセントリズム）といい、それを乗り越えることが文化人類学の目指すところであるが、そのような眼差しが自分にもあることをXは反省すべきだ。

グレーバーの本を手掛かりにして議論してきたが、本を読み知識を身につけるとは、東大王になりクイズで優勝するためではない。社会や文化の仕組みを知り、自らの価値観を捉え直し謙虚な姿勢で他者に対して振る舞うために必要なのである。放送大学で学んだ（学ぶ）皆さんにはこのことを忘れないでいただきたい。

Xには文化人類学を学ぶことをお薦めしたい。

島根学習センター赴任にあたって

島根学習センター
事務長 平野英夫



明治5(1872)年9月、明治新政府は小学・中学・大学から成る学校制度を定めました。そして、その翌年の明治6(1873)年には、現在も存続している多くの小学校が開校しています。それから150年目にあたる昨年(2023年)は、全国の小学校で開校150周年記念式典が開催されました。島根県内の出雲・石見・隠岐の各地域の小学校でも、いろいろな催しが行われたようです。私が卒業した小学校も明治6年の開校でしたので、存続していれば150周年のはずだったのですが、残念ながら隣の小学校と統合され今はありません。松江市立白潟小学校という名前の小学校です。

今から29年前の平成7(1995)年に行われた学校統合にともない、松江市の中心部、白潟地区は明治6年以来はじめて学校が無い地区になりました。そして、その空白をすぐに埋めるようなタイミングで翌年の平成8(1996)年、白潟本町に新たに開設されたのが、放送大学島根学習センターです。当時は「島根地域学習センター」と言う名称でした。まもなく30周年を迎えようとするこの学習センターに、縁あってこの4月から勤務させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この30年間、島根県の人口は減少を続けています。島根県における1年間の死亡者数が出生児数を上回る、人口の「自然減」と言われる状態が始まったのは、島根学習センター開設の3年前、平成5(1993)年のことです。それ以降、島根県はこの状態から一度も脱却できません。更に、県外への転出者数が県外からの転入者数を上回る「社会減」の状態は、高度経済成長期からほぼ一貫して続いています。特に10代、20代の人口流出が顕著です。その原因の一つとして、この地域における働く場、学ぶ場の少なさがあります。中でも高等教育機関である大学について言えば、国立と県立の二つの大学があるだけです。これは全国47都道府県の中で最少です。

放送大学は生涯学習の場として、広く大学教育の機会を提供する役割を担っています。特に大学の選択肢が極端に少ない地域にある島根学習センターの任務は、大都市にある学習センターよりも更に重要であると思います。島根学習センターが若い方から年配の方まで、幅広い年齢層の方々に気軽にご利用いただける地域の点施設として機能するよう努力してまいります。

どうか同窓会の皆様にも引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

令和5年度

第1学期学位記授与式 が行われました



令和5年度第2学期学位記授与式が、3月24日(日)午前10時40分から島根学習センター3階第1講義室で開催されました。第2学期は大学院1名、教養学部25名が卒業され、本授与式には教養学部の6名が出席されました。

最初に出口島根学習センター所長より学位記が卒業生修了生おひとりお一人に手渡されました。続いて出口島根学習センター所長から次のような祝辞がありました。「放送大学での学びを通して知識を活用して先の見えない時代を生き抜いていただきたい。どのように知識を活用すればよいのかということ、既存の価値観や常識を疑い、物事の本質をとらえなおそうと試みるのが大切です。そしてベストセラーとなった文化人類学者のデヴィット・グレーバーの「経済学者は貨幣の起源を説明するが、物々交換の歴史的、考古学的事実はないと断言して、経済学者の主張を、経済学者の思い込みと批判している「負債論」を紹介し卒業される皆さんに、このように既存の価値観を改めて問い直すという姿勢を身に付けて欲しい。常識を疑って、日々の生活を見慣れないものに変えていくようになることを願ってやみません」との期待を伝えしてお祝いの言葉としますと式辞がありました。

続いて、来賓を代表して放送大学島根同窓会竹下会長から次のようなお祝いの挨拶がありました。今、多くの国民が社会の現状、とりわけ派閥ぐるみの危機的犯罪とも言える裏金問題に怒りや不満をもっており、希望をもって暮らせる社会を求めていると思います。高等教育を学んだ皆さんを含めて放送大学を卒業された皆さんにはテレビやマスコミの流す情報をうのみにして判断するのではなく、その根底は何かを知ることが大切だと思います。そこで、私が日頃、実践をしていることを紹介してお祝いの言葉とさせていただきます。個人として何ができるかということで、憲法で保障されている表現の自由

を十分に発揮して、何故かと批判をしてみるとのことです。現政権は、国民が圧倒的反対しても、閣議決定で決めています。教育も平和であるからその機会を享受できます。放送大学で学んだことは、単に個人のスキルを上げるだけではなく、それを社会の中でどう生かしていくが必要ではないでしょうか。特に人口減のなかでは社会で経験のある者の示唆が大いに役立つと考えています。ぜひ社会活動にも取り組んでいただきたい。また卒業後は放送大学の発展にご尽力を頂き、あわせて同窓会にもぜひご入会いただきたい。

島根同窓会は昨年10月、中四国同窓会交流会をホストとして開催しました。これに岩永学長自らお越しいただいたことは全国で初めてであり、それだけ島根に期待をもって頂いていると感じています。少なからず、放送大学を宣伝し発展を願うことに期待された証しだと考えています。是非、島根同窓会に入会いただき一緒に活動をしていただきたいと思います。本日は、同窓会として心からお祝いを申し上げます。

学位記を受けて

卒業を迎えて 心理と教育コース 足立 一政



私は中学校部活動の外部コーチとしてバスケットボールの指導を23年前から実施しており、現在も会社員をしながら出雲市の部活動指導員として、子どもたちと一緒に活動させてもらっています。

特に多感な年代である中学生を指導していく上で、反発する子、皆の中に入っていけない子、いじめの問題への対処等いろいろな悩みがありました。

そんな中、放送大学で「心理と教育コース」があることを知り、自分のペースで学べるならばと選科履修生として放送大学へ入学し、今回足掛け12年で学位を取得することができました。その学びは、今も中学校の部活指導のいろいろな場面で参考になっています。

最近私の中のキーワードは「好奇心」です。小さい頃は、未知のものへの興味や探求心を抱いていた気がします。それが大人になると徐々に失われていくのが普通です。でも「好奇心」こそが人生を豊かにする大切な要素だと感じています。

部活動で半世紀(50歳)以上歳の違う子供たちと真剣に対応した中から生まれた新たな「好

奇心」のおもむくままに次のステップ(大学院)へチャレンジしていきます。

卒業を迎えて

嘉戸章宏



この度、放送大学-生活と福祉コースを無事に卒業できました。ありがとうございます。

振り返れば在学の4.5年間にコロナウィルス、ウクライナ戦争、能登半島地震等、勉学の妨げも多く発生しました。コロナ対策は、特に印象深く世界各国で対策する程でした。

私の勤務先(医療福祉系)でも、院内感染防止の為、全身防護具や病棟内隔離、行動制限や出勤停止等が行われており、令和元年入学から卒業まで、コロナ対策と共にありました。放送大学では、オンライン受験が認められた為、学習センターでの受験は初回のみでした。非常に助かる施策で、松江市への渡航禁止の時期も大丈夫でした。スクーリングが良いと言われる方もいますが、私の場合、いつ収束するのか先が見えない時期には、オンラインやテレワークがとても有効でした。

就学困難になった方もいらっしゃるだろうと思いつつ、卒業証書をいただきました。無事に卒業できたのは、ある種の奇跡のように有り難いことで、宝物だと思っています。せっかく戴いたのですから、日々の業務にも役立てて行く所存です。

就学困難は有り得ることで、生涯学習のできる大学、きっと助かると思います。また、高齢者になっても勉強できたら、生き甲斐も増えます。いつか学生に戻りたいです。

どうも有り難うございました。

3コース目の卒業

松江市 米山 章

11年前に入学し、このたび3コース目を卒業、全コースの半分をクリアしました。最初の「人間と文化」コースは退職後の整理もあり、日頃の忙しさに追われていました。次の「生活と福祉」コース



は、認知症の詳細、高齢者の実態、登校拒否児童への対応等々、現場で体験している事象が多かったためやや新鮮味に欠けたところがありましたが、最後の情報コースは好きな分野であったこともあり、余裕をもって楽しく学ぶことがで

きました。

毎日の中の非日常

私は、若いころから登山が趣味で、深田久弥の日本百名山を全踏破するつもりで、日本アルプスの槍ヶ岳、穂高岳をはじめ片っ端から登っていました。自分自身、登山そのものが楽しいか旅が楽しいのか余り考えたことなどありませんでしたが、ある時自宅に帰り着くまではそれが「非日常」の世界であることに気がつきました。

「非日常」という時空にいと人間は精神が高揚します。普段はあたりまえ過ぎて見過ごしている人や物、さまざまな事象を、まじまじと眺めたり考えたりもします。

旅にたとえた人生の、出発地と帰り着く地はほぼ分かっているとして、それでは人生の目的地はどこか、そこで何をするのか、何を目指した旅なのか。

老に入り久しくなりましたが、体力が続かなくなった分、もう少し毎日の中の非日常に放送大学をおいてみようと思います。

人生の日常性を考えるとき、それを端的に詠ったと思える歌「襟裳岬」の一節を思い出します。

襟裳岬

作詞 岡本おさみ

作曲 吉田拓郎

日々の暮らしはいやでも
やってくるけど
静かに 笑ってしまおう
いじけることだけが 生きることだと
飼い馴らしすぎたので
身構えながら話すなんて
ああ おくびょう なんだよね

「卒業を迎えて」

高橋義子



2024年3月に無事卒業ができて、これも、サポートしてくださいました大学関係者の皆様と、仕事と家庭と大学生と3足のわらじでも協力して許してくれた家族に、感謝

の気持ちを今ここに表したいと思います。

振り返りますと、放送大学へ入学(3年次に編入学)したきっかけは、目指していた、国家検定2級キャリアコンサルティング技能士資格を取得したい為でした。10%台の低い合格率で数年かかると聞いて尋常でない学びをしようと思ひ、関係の深い心理と教育コースに2019年に入りました。思いがけず2級資格はその年の夏

に取得でき、その後は認定心理士取得を目標にすえ、学習センターへ相談して、これもお陰様で学科を効率よく受ける事ができ単位も順調に取得できました。

難関だったのは、認定心理士に必須の心理学実験1~3と心理検査法基礎実習でした。レポートが毎回3種も短期間の締切までにあり、夜自宅でレポートを作成する日々で、眼が真っ赤に充血し、自分でも12時過ぎまでなぜこんなに勉強しているのだと自問自答しながらの日々でした。そこで、心理学実験の各種参考本を複数手に入れ読み、2回目、3回目とコツが掴め、自分でも、やればできるし、頑張れば乗り越えられると、自信がない自分の少し殻を破ることができました。皆様があつて私があると、しみじみと感じました。

また卒業が名残惜しく、落ち着いたら他のコースの授業も受けてみたいと希望を持っております。

2023年度2学期

卒業を祝う会を開催しました



2024年3月24日(日)学習センター3階第1講義室にて、2023年度第2学期学位記授与式に引き続き「卒業を祝う会」を同窓会主催で開催しました。今回は学部卒業生25人、修士修了生1人で26人となり、そのうち出席4名の方に参加をいただきました。

冒頭、竹下会長より皆さんの卒業に対し、改めてお祝いとその学習への努力に敬意を表し、互いに喜びを共有したいと述べ、皆さんが卒業された放送大学は、年配者の生涯学習の場から、学長発言から何うと、入学時の学歴が明らかに高まっている現状から、これまでの放送大学運営討課題となっており、授業の見直しとメディアを利用した新しいタイプの授業開発、若年学生への配慮と高大との接続、高等学校とりわけ通信制高等学校、普通科高校、専門学校での専門教育と学部卒業資格取得科目並行履修(ダブルスクール型・編入学型)の連携関係の構築、社会環境の変化と大学に於けるDXへの取り組みと変化せざるを得ないとの挨拶がありました。

すると、これまでに体験してきた放送大学は高齢者の生涯学習の場はますます遠きつつあるのだと認識した次第です。

続いて出口所長、尾崎、大谷各客員教員、藤嶋

学友会長からお祝いとねぎらいの言葉があり、卒業生の皆様から一言ずつ感想をいただきました。

就職支援活動に関わり心理と教育コースを学び、卒業とともに認定心理士の資格を手に入れた。介護の現場に努めている関係から生活と福祉コースを学び参考になった、Webのためセンターに来ることがなくなったので寂しいなどの発言があり、大学への要望として面接授業はハイブリッドとすべき等の意見が出され、和やかに懇談でき改めて卒業できたことに自分自身を褒めたい、などの意見が交わされました。

〈文責：竹下〉

アカデミックガウン を試着して記念写真



2022年度第2学期から実施しています卒業された方のアカデミックガウン試着での記念撮影会は、今回で3回目となり希望された方は2人でした。

撮影はセミプロ写真家にお申し、ガウンの試着で先輩卒業生が見守る中、最初はやはり緊張されていましたが、皆さんから祝福されて緊張がほぐれたのか笑顔も見えました。撮影を希望された卒業生の皆さんは同窓会に入会されました。誠にありがとうございました。9月の第1学期は多数ご希望を下さい。(文責：竹下)

第12回通常総会記念

第17回市民公開講座を開きました



生活安全課はいろんな仕事がありますが、一つは本日のように皆さんが犯罪の被害に遭わないよういろいろな手段で取り組みます。自転車にカギをかけましょう、子どもの非行防止への取り組み、刑事や交通も扱わない事件や事故なども生活安全課が担当。例えばゴミを違法に捨てた

り、廃棄物を捨てたり、放射能廃棄物についても生活安全課です。

本日は島根県内の特殊詐欺被害事例とその対策について、お話をします。冒頭会長から報告がありました通り、今月15日に県東部の60代男性がSNS型投資詐欺で5,320万円もの被害に遭われています。SNS型投資やロマンス詐欺は、捜査上特殊詐欺には分類されていないのですが、被害金額は特殊詐欺に比べて大きく、交流サイトのLINEを通じて相手を信用させて金をだまし取るなど手口は実に巧妙化しています。後半で詳しくお話します。

まず本日の内容は、特殊詐欺の概要と発生状況、主な詐欺の手口と防止方法、松江市内での発生状況、最後にSNS型投資・ロマンス詐欺についてとなります。お手元のPower pointと同一の資料がありますので、それに従って話を進めます。

特殊詐欺とは不特性多数に電話をかけ、反応のありそうな人を探し、直接には対面しないで金品をだまし取る。種類は、息子に成りすましてのオレオレ、預貯金、最近ではアダルト閲覧架空請求、公的機関からの還付金、FAXで簡単に融資するため保証金を求める融資保証金、金融商品、競馬必勝法やパチンコ必勝法などギャンブル、キャッシュカード、交際斡旋、その他の特殊詐欺があります。

昨年、特に多発した詐欺の手口と防止方法ですが、昨年1年間の全国の特種詐欺被害額は約440億円、SNS型投資・ロマンス詐欺被害は460億円と特殊詐欺より多く、県内でも特殊詐欺被害額は約1億5,437万円、SNS型投資・ロマンス詐欺被害は約1億8,752万円です。発生件数では県内特殊詐欺71件、SNS型投資・ロマンス詐欺22件と少ないが、益田では1件4,000万円の被害額があり大きくなっています。

預貯金詐欺ですが、7件被害金額3,645万円です。内容は警察や検察庁を名乗って操作のため預貯金を一時預かるとして通帳やキャッシュカードを郵便受けに入れさせて、事前に暗証番号を聞いていて払い出しを行うものです。

地元の雲南市で実際に遭った事件ですが、「警視庁の〇〇警察署の〇〇です」と電話があり、「犯人を捕まえたらあなたの口座を使っていたのであなたも共犯者になります。検察庁から電話がありますから」と言い、その後検察庁を名乗



る者から「捜査しなくてはならないのであなた

のキャッシュカードを封筒に入れて、郵便受けに入れてください。地元の警察官が受け取りに行きますから」と電話があり、被害に遭いました。対策は、①警察や検察庁を名乗っても信用しない、②地元の警察に確認する、③警察が通帳やキャッシュカードを預かることはない、④誰にも言うなどと警察が言うことはありません。

還付金詐欺ですが、県内で14件約1,273万円でした。自宅に市役所職員を名乗る者から「保険料の過払い金の払戻しがある」「取引のある銀行はどこですか」などと電話が架かり、次いで取引のある金融機関を名乗る者が電話をしてきて、「ATMに行き、電話をしてください」と言われ、ATMで電話を掛けると、相手がATMの操作方法を言ってきて、言われるままに操作すると、自分の口座から犯人の口座に逆に送金してしまうものです。

特徴は①保険料、過払い金、還付金、課徴金など〇〇金などの文言が出てくる。②「期限が今日まで」とか「期限が切れているから今日なら手続きできる」などと言ってくる。③銀行の窓口では手続きができず、ATMに誘導される。金が受け取れると思っていたのに逆の送金をしているのです。県内14件は人口に比べて少ないですが実態は多く発生していると考えます。それは被害額が少ないため警察に報告しなかった、被害に遭ったことを知られたくないなどです。ATMで還付金を受けることはありません。ATMに誘導された場合銀行は指定されずに、コンビニのATMに誘導されます。お店なら店員が少ないので、大丈夫だと思っているからです。

架空料金請求詐欺です。去年は40件で約4,256万円ですが、特に最近多発しているのがパソコン操作中に、突然「ウイルスに感染しました」とか「ハッカーが侵入している」などの表示が出て、連絡先の電話番号が表示され、その電話番号に電話すると片言の日本語でサポート(保証)料や修理代をコンビニなどで「電子マネー」(すでに詐欺)を購入して支払うよう指示され、購入した電子マネーの番号を犯人に伝えることになり、だまし取られるものです。1回の購入で番号を伝えても“エラー”になりましたと追加で何回も購入を求められます。店員に怪しまれるので、同一店ではなく別のコンビニで購入下さいと指示をされます。

対策は、表示された電話には絶対に出ない。電子マネーという文言が出た時点でおかしいと思う。キーボードの「AIT」+「F4」キーを同時に押すと消えます。ブラウザの「閲覧履歴の削除」と再起動をする。それでも治らないときは購入してお店に問い合わせをする。

松江市内での被害は、架空料金請求詐欺では14件2,734万円、被害者年代65歳未満8人、65歳以上6人、有料サイト利用名目、ウイルス除去名目です。

還付金詐欺3件191万円、被害者年代65歳以上で介護保険料、年金名目でATMへ誘導し操作を電話で指示され被害に遭っています。

オレオレ詐欺では、件数1件、被害金額105万円、被害年代80歳代で息子を騙り、会社に納めるお金を落としたと騙されています。

預貯金詐欺では、件数2件、被害金額218万円、被害年代何れも80歳代で、市役所を騙る者から、保険料の還付金名目で電話があり、キャッシュカードを更新しなければならないと言われ、金融機関職員を名乗る者が家を訪れキャッシュカードをだまし取り引きだした。

実際の犯人からの電話を聞いてください。架空料金請求でNTTファイナンスを名乗る者から未納料金の支払いを求める犯人と、支払いを求められた男性とのやり取り事案を聴く。

最近は特殊詐欺だけでなく、SNS型投資・ロマンス詐欺があり、その具体的な手口は、昨年11件約9,857万円となり、投資名目も恋愛感情や親近感を抱かせながら投資に誘導するもの。結婚資金を一緒に貯めるためと言ってくる場合や、その他恋愛感情や親近感を抱かせながら架空の事実を口実とし、交際の継続などを前提とした各種名目で金銭をだまし取るものです。今年5月15日に県東部の60代男性がSNS型投資詐欺で5,320万円をだまし取られたとの報道があります。ネットで著名人が投資サポートするとの広告を見つけ、連絡すると著名人を名乗る人物とSNSでやり取りをして、6回にわたり振り込んで被害に遭っています。またLINEで勝手に友達登録され、LINEグループの皆さんは投資で大儲けしているとして、あなたも投資をしませんか。サポートしますからと勧誘してきますので、知らないLINEは友達登録をしないでください。

昨年1年間の全国の特種詐欺の被害金額は約440億円であったのに対し、SNS型投資・ロマンス詐欺の被害は460億円と特種詐欺より多くなっています。県内でも、特種詐欺の被害金額が約1億5,437万円、SNS型投資・ロマンス詐欺は約1億8,752万円となっています。発生件数では県内では特種詐欺が71件であるのにSNS型投資・ロマンス詐欺は22件と少ないですが、1件当たりの被害金額が大きくなりやすいため、全国でも、県内でも被害金額は大きく上回っています。

オレオレ詐欺にあった被害者は70歳代の女性と80歳代の男性の手記を紹介します。いずれも息子を助けたい為犯人の要求に応えた事例を読み上げて注意喚起をすることが必要です。

まとめですが、詐欺にあわないためには、世の中の情報に注意をすること、固定電話を録音することを相手に伝える機種に変更するか、行政に相談して発信装置を設置する、一人で判断することなく身近な人に相談することです。島根県警の「みこびー安全メール」に登録して、特殊

詐欺事件・事故の速報などが聞かれますのでご活用ください。



当日の講座を伝える島根日日新聞

第12回通常総会を開きました



通常総会は飯塚理事の司会により開催され、初めに竹下会長から「年1回通常総会を開くことになっています。本日は総会の前に市民公開講座を開催しました。その後引き続き通常総会を開会する次第です。同窓会も12回目の総会を無事迎えることができましたのも、会員の皆さまのご支援によるもので暖かく感謝を申し上げます。コロナの影響で集まる機会が少なくなり、社会活動も2類から5類へと社会活動が軽減され、以前の活動へと戻りつつあります。

今年度は初めて中四国同窓会交流会開催当番となり、昨年4月より役員と実行委員にて準備に総力を挙げてまいりましたので、肝心の島根での取り組みが疎かになったことをお詫び申し上げます。しかし島根での開催で、岩永学長が交流会へ初参加となり、「島根らしいおもてなし」の取り組みと、小泉凡氏へ小泉八雲についての講演と、松江城周辺の歴史探訪で内容のある企画となり、参加者から大いなる称賛の声を頂きました。

議案書にて活動の結果と、新年度への取り組みについてご提案していますので、ご審議の程お願いします。

続いて出口所長による来賓挨拶は、「昨年就任後初めて同窓会の総会に出させていただきます、そ

の時に思ったことですが皆さんは私より若そうだなと感じた次第です。昨年所長に就任しまして、それまでの勤務形態が全く異なり、大学の裁量労働制のため、担当講座以外は好きな時間に出勤して、好きな時間に帰れたのですが、ここに来て初めてバスで定時出退勤して、しかも土日出退勤となり、若いと思っていたのに体調を崩しまして、皆さんもご心配をおかけしましたが、今年は気を付けようと思っています。

学習センターは事務長を始め3人のスタッフが変わりまして、新しい体制でスタートすることになりますが、全体的に学生数が減少していますのでセンターの在り方も変わりつつありますが、学生数が減ることと、自宅で受講や試験を受けることができ、近年は若い学生が増え、学生の構成が変わってきています。

それに伴ってセンターの業務や活動の在り方も、今後考えて行くべきではないかと全国的な会議やブロックでの所長会や事務長の会議にても議論されています。今後センターの活動をどう進めて行くべきか、例えば面接授業もLive配信すべきとか、そのことは同窓会の皆さん方にもお力添えを頂き、ともに活動を見直しながら、同窓生や学生の活動がベストなのか、考えて行ければと思います。今後ともよろしく申し上げます。」と来賓の挨拶を受けました。

議長選出と議事録署名人の選出について、議長に石川副会長、議事録署名人に竹下孝子さんを指名しました。

石川議長より本総会の成立について会則第1



1条で会員の5分に1により総会の成立とあります。本日会員72人で出席11人、委任状25人で36人ですので5分の1を超過しており、総会の成立を確認しました。

第1号議案提案を竹下会長が行い、すでに配布の議案書にて詳細に報告していますが、欠落している第9回中四国同窓会交流会関係につき補足をされた。

「先ず手掛けたのが里山回帰の植林ボランティア、市民公開講座も17回にわたり開催していることから、これらの活動はマスコミでも報道され、放送大学と同窓会が認知されたことです。

会内では文化部の新設と中四国同窓会交流会成功に心血を注ぎ、地方の交流会に初めて現職の学長が参加され、直接今後の大学の在り方を伺うことができ、懇親会では同窓会ごとに学長

とともに肩を並べて記念撮影を行い、学長と身近に接する一大イベントとなりました。生涯忘れることのできない出来事です。後は課題別の議案書に記述しておりますので、ご覧いただきたい。先ほど出口所長からも今後の活動の在り方が求められているとのことでしたが、それ以上に同窓会もその存在の在り方が問われる状況です。会員の減少と私を始め創設以来の役員も高齢化となり、世代交代のための継承活動が喫緊の課題となっています。」と活動報告がされた。

提案の1号議案について質問、意見はなく拍手にて承認されました。



第2号議案の決算報告並びに監査報告を森協理事、田中監事が提案され、「2023年度の収入総額は中四国交流会経費を含めていますので金額が多くなっていますが、連合会からの助成金は一般会計とは別に決算することが求められているため、同窓会活動への助成金と交流会への助成金を個別に決算しています。具体的な内訳は決算書にてご確認ください。」

続いて監査報告を田中監事から、「4月6日に林監事と私が監査を行い、現金、金融機関の預金通帳、領収書など点検の結果、すべてにおいて厳正に処理されていることを確認しました。」と監査結果を報告されました。

提案の第2号議案の決算報告、監査報告について質問、意見はなく拍手にて承認されました。

第3号議案2024年度活動計画(案)を竹下会長から提案され、まず仲間を増やすための活動をどう進めるかについて「11年間活動をして参りました。そのため量から質をどう高めるかについて、毎年会員として3年ごとに継続の可否についてお訊ねしていますが、毎回何人かの方が退会とのご連絡はありますが、全員から返書のハガキが届いていません。規模の大きい都市部の同窓会は退会者も多くいますが、新たな卒業生の入会も多く結果減少することはないですが、規模の小さい同窓会は入会者が少なく、年々減少している状況です。」

次年度に是非取り組みたいのがこれまでの活動と、能登半島沖での地震と津波被害にみられる通り、日本中どこでいつ発震するかわからないため、新しく防災部を創設したいと考えています。幸いにも会員で防災士の資格をお持ちの方がおられますので、同意を得ましたらその方を中心にして取り組みたいと考えています。

それ以外には、これまで取り組んできました

活動に取り組み、学習センター発展に向けて学生募集とセンター行事への協力、特に県西部における学生対策、島根学友会との連携も深めること、また近隣の鳥取同窓会や学友会との交流にも取り組みたいと思います。具体的な課題の取り組みにつきましては、議案書にて記述していますので、ご検討の程よろしく申し上げます。

出口所長から発言があり「新年度はしまね大交流会には出展しません。理由は今年度も事前に出展者の名刺交換会があり、各賛助会員企業に名刺を配って回ったんですがあまり関心がなく、手間暇をかけている割には効果が少ないことから、出展を見合わせて高専や高校を回って学生に直に呼びかけることにしたいと考えていますので、その折には同窓会にご協力をお願いしたい。」と提案をされました。

提案の第3号議案2024年度の活動計画案について質問、意見はなく拍手にて承認されました。

提案の第4号議案予算案は森協理事から「2024年度の予算案についてですが、前年度と比べると大きく減額していますが、連合会の地区別交流会がありませんので、通常の収支予算案となっています。会員が減少していますが、会費収入を昨年並みと寄付金、前年度からの繰越金(会費の前払金も含み)で予算を立てました。費目等の予算額は記述していますので、ご審議をお願いします。」と提案されました。

提案の第4号議案予算案について質問、意見はなく拍手にて承認されました。

続いて新事務長による「この4月から新しく事務長に就任しました平野英夫です。2026年10月に島根学習センター開所30年を迎えます。節目の時には同窓会の皆様のご協力をよろしく申し上げます。」と就任挨拶がありました。

以上総会行事を終了し、参加者全員による記念写真となり、総会は終了しました。

放送大学連合会

第27回通常総会模様



6月1日(土)～2日(日)の二日間にわたり、放送大学本部 図書館3F 大会議室において同窓会連合会の第27回通常総会が開催されました。

1日目は、総会・検討会が開催されました。冒頭、南谷連合会会長の挨拶のあと、議事に沿って

進められました。第1号議案(2023年度活動報告)、第2号議案(2023年度決裁報告)、同監査報告、第3号議案(2024年度活動方針)、第4号議案(2024年度予算計画)、第5号議案(2024年



度役員選任)について報告と提案があり承認されました。

主な質疑内容は以下のとおりです。南谷会長からは、学生数が減少傾向にあり、同窓会活動の活発化を目指す。学位授与式は好評だった等の挨拶があった。

続いて検討会が開催され、岩永学長、近藤副学長、加藤副学長など幹部の方が紹介された。岩永学長からは「今、放送大学は・・・」とのテーマで講演をいただいた。「放送大学におけるデジタル化の推進」状況のお話のあと、今、放送大学が直面する課題として(1)高等教育体制と生涯学習体系の中での役割の再確認、(2)学内諸部門(役割)の「横の連携」の見直しとその強化、

(3)聖域なきDXの推進(中長期ビジョンの一層の具体化)、(4)学習者の特性とニーズにあった素材と提供方法の模索、(5)学習センターの新たな役割と機能の創出・開拓・推進、(6)国際化・他機関との連携を含む新たな教育需要の開拓としてお話を頂いた。

その後、地区交流会の報告があり各地区(7地区)から発表があった。島根からは岩永学長、南谷会長、須藤副会長にも出席いただき開催したこと。小泉八雲のひ孫「小泉凡先生」による講演会が好評だったこと、会員のおもてなしが参加者のこころを打ったことなどを報告した。一方では、各同窓会の共通の悩みとして役員の高齢化による継承が困難になってきていること、入会者が減少していること、財政難が課題であることも報告した。

学長の所感として、役員不足と高齢化は全国共通の課題である。最近の学生は若くなってきており、同窓会に入りたいと思わない、役員になろうと思わないのではないかと。同窓会のあり方を考える必要があるのでは、成功事例の共有化など、きっかけ・ヒントが欲しいなどの話を頂いた。

2日目は場所をセミナーハウス会議室に移して、情報交換会を開催した。

京都からは、三位一体で活動していたが、コロナ後同窓会が除かれ、入学者の集いにも呼ばれなかった、支援室と協議したが進展していない。大阪は入会者に記念として、バッチかスタンプ帳を渡している。北海道からは総会日程を6月

第2週に希望、総会出欠ハガキに近況を記載してもらい会報に記載している。東京多摩は役員確保にサポーター制度を導入した。今までは行事をやりすぎた、これからは縮小する。島根は報告資料に基づき、社会貢献活動状況などを中心に報告した。

全体のまとめとして①会員・役員の高齢化の問題(若い人をどうやって入れるか)、②今後、郵便料金が値上げされる(アイデアを募集)、③交通費について(高い請求になっていないか? JRも領収を取ったらどうか)などの意見がだされた。引き続き検討することとなりました。

(記:石川直樹)

社会貢献活動に 取り組む会員探訪⑥

米子市 八田定夫さん



2023年1月24日(金)15時に、小・中学生と高校生を対象とするフリースクールを開校され、島根学習センター学友会長を2期4年間勤められた八田定夫さんを、米子市皆生温泉に取材に伺い

ました。

訪問した会場は、4階建てのRC構造でアパートとして賃貸され、今は廃止され、その3階でスクールを開校されています。

私は当時勤めていた職場の役員が某医院を開業されていた関係から、頻りに訪れ近辺の旅館やホテルなどに宿泊し、食事処にも度々訪れていたことや、全国の団体に勤務している事務局員の研修会を某ホテルを貸し切って開催したことを思い出し、懐しさを胸に浸って伺いました。

訪問時間を15時としたのは、実際に生徒さんが授業を受けているところを見学したいとお願いしたからです。

—放送大学への入学はいつ頃でしたか

八田 平成22年(2010)3月です。そのころ、発達障がいの子どもたちについて多少の知識はありましたが、体系的に勉強をし直さなくてはと考えていました。今は分かりませんが、当時、特別支援学校は普通免許ですることができましたが、「特別支援」の免許所持者の先生の方が採用されやすいと聞いておりました。納得のいくことであり、それだけ専門性が要求されるということです。そこで、特別支援学校へ勤務す



とが第一歩だと考えました。

現役のころは、文科省の認定講習で取得できたので、それを申し込みしようと県にお尋ねしたところ、「退職者は大学で取得してください。」との返事でした。そこでたまたま某学校で進路指導主事をしていたころ「放送大学」のパンフレットがあったことを思い出し、同学へ入学したわけです。そして単位（同教員免許）取得後、放送大学の学生の皆さんはどんなことを学習しておられるかと思い、周囲の方にお聞きしましたところ、「教育と心理コース」がいいのではとアドバイスを受け、放送大学での学習を続け、おかげさまで同コースを卒業することができ、現在に至っています。

その後、発達障がいの子ともう少し深く勉強しようと思い、某大学通信教育課程へ入学し、さまざまなことを学習することができました。その大学では大学の先生の本音が実践経験を積んでおられ、レポートが実践に沿って出され難しいことで有名でした。知人もある教科で論述式レポートを4回再提出したそうです。

それで、学友会を辞し、しっかりと学習することにしました。そして私なりに一応区切りがついたものですから、再び放送大学に入り教員免許国語科に関する単位を取得したりしましたが、必要単位数が足りませんので、他の通信制大学と兼ね取得しました。他教科を取得するには放送大学での対応科目の中で「一種免許状取得に利用できる科目」で学習することができますので便利です。

現在、「国語科」取得で調子づいたものですが、また他教科を取ろうと再入学するかどうか迷っているところです。長年英語の教師をしていましたので、特別支援以外に英語をそして他教科（3教科）を持っておりその勉強も大変です。センター試験はもちろん、難関大学入試をこなせないとなると免許保持者が笑われるのは当たり前前のことだからです。

そして、福祉等他の分野についての経験・学習等も要求される昨今、どう折り合いをつけるか頭の痛いところです。

一当フリースクールでの授業内容は

八田 運営の内容については、一般的に開校されている経営者の考えで千差万別です。例えば、勉強を中心にされるところや居場所の提供オンリーのところもありますので色々です。当スクールでは開校当初は勉強が中心でしたが、だんだんと重たい子どもたちが入るようになり、ひとり一人を大切にしてい見守っています。例え

るわけではないのですが、自信を持って取り組めるにはまず免許所持者になること

ば、コミュニケーション能力を通じて、生徒同士や外の人との交わりなどを通して、自立心・自己肯定感をやしなうことを第一義にしています。学習活動はもちろん大切であり、重要な柱であることは言うまでもありません。忘れてならないのは、学校・保護者との連携を密にし、情報共有を図り、何がその子に必要なのか、要望が叶うよう日々取り組んでいます。学習をおろそかにしてはいけません。基礎学力が不足しますと、いろいろな所に支障がでてきます。それを取り戻すには大変な時間と労力を要します。それは短絡的に考えてはいけません。つけがまわってきただけからでは、何倍も努力を要するからです。

また、スクールによっては一度入学するとスクールへとどめ、学校復帰をためらうところもありますが、私には信じられません。学校現場こそがミニチュア社会であり、社会への巣立ちの基礎になるからです。学校現場を否定される方もおられますが、一般的にはそうではありません。先生方のご努力には頭がさがります。意見を偏らせず、多方面からアドバイスをもらって、ご自分で判断してください。きっと上手くいきます。私はなにも学校以外の教育を否定しているわけではありません。それはそれで必要なことです。

人と人、周りの環境になれば、一步一步目標に近づくことが大切で時間がかかります。諦めてはいけません。数字にとらわれず、その子の本質を見極めることです。生徒の良いところを見出し、それを伸ばすことです。欲張ってはいけませんし、生徒数を自慢するようなどころでは本



質がみえなくなりません。生徒を信じればきっとうまくいきます。根気がある仕事です。

一卒業の認定はどうなるのでしょうか

八田 小・中の場合は義務教育ですので、その生徒が所属する該当学校が認定権を持っています。ですから「出席扱にする」かどうかは、該当の学校長が決めます。フリースクール開校当初は、「時期尚早」との返事でしたが、最近は「出席扱い」にしてくださいます。ようやく学校側のフリースクールへの理解が少し進んだような気がします。

一方、高等学校の場合はきちんとしたカリキュラムがあります。本スクールでは、例えば期末試験の場合、1教科3日間位時間をかけ、全部で1~2か月かけて行います。学習経験が低い子が多いので、時間をかけ点数を取らせるよう取り組みます。その場合不適切な配慮をすることは決してよくありません。その子の成長にとって良い影響を与えないからです。たとえ生徒ができなくても、本人が正論に向かって努力をすることが明日への成功体験につながっていくから

です。教育評価は点数がその柱にはなりますが、観点はいろいろあります。その子にとって「何が大切か」常に自問自答を繰り返しながら先へ進めることです。くどいようですが、生徒数・数字等にこだわってはいけません。それらは後からついてくるものです。金儲けに走っては本末転倒というもので、「教育の本質は何か」と再び問われる時代になりました。

一具体的には単位数はいくらですか



八田 定・通の最低単位数は74単位です。普通の全日制では学校によって多少違いはありますが大体108単位です。結論から言いますと、スクールへ来れる子はまだいいのですが、問題は家に引きこもっている子どもたちです。本当の正確な数はわかりませんが社会的に大問題で国の損失です。1人でも2人でも自立をさせたいのが私の願いです。フリースクールや塾に比べると学校で行われる教育には素晴らしいものがあります。よく学校教育を否定される方がありますが、私は疑問に思っています。あくまでも我々は組織としては、学校を「主」とすれば「従」という立場を忘れてはなりません。あえて誤解のないように申しあげますが、私たちのしている教育は教育として対等です。何も卑下するものではありません。

一学校教育でも教師の資質や同級生によって、不登校を助長させているのでは

八田 当然有意差はあります。問題は友達どうし、教師と生徒間でどうやって折り合いをつけるかであり、苦しい時にはフリースクール等に来ればよいのです。それで問題が解決し、エネルギーの補給ができてまた学校へ登校すれば良いのです。ところが、問題はフリースクール等に生徒が来ることを学校側が理解していないことです。学校には学校文化が根強く残っており、校内だけですべて解決しようとする傾向があります。ある会合で小学校の先生が私と同じようなことを発言されていたのが印象に残っています。今や学校だけで全てを解決できる時代ではありません。

先生方も手一杯ですし、教員の休職者数をお考えになれば自明のことです。教職経験豊富な先生、経験が浅い先生など職場はいろいろです。一人で悩まず、チーム一眼となって頑張ってお互いに助け合いたいと思っております。教育困難な時代であることはまちがいありません。ぜひ我々の力が少しでもお役にたてればと願っております。生徒ひとひとりを大切に、学校文化を打破すれば解決の糸口が見つかります。

一軽い障害がある児童に対して、通級制度があります

八田 学校に在籍していて通級に通い、ある科目を学習し、エネルギーを充足できればもとの学級に戻るといったような仕組みがあります。ところが



それでもしんどい子がスクールには来るわけです。学校の学字もいやだとなると場所を変えた方がよいのではと思われれます。フリースクールは永遠の場所ではないのです。前述したように、一部のところでは入ってくるとなかなか学校復帰させないところもあり、誤解を生んでいます。学校教育は総合的に良いところで、学校復帰させる価値があり、私はこちらの立場をとっています。

昨今、学校とスクールが対等・並列と思われをしておられる方々があります。それはそれでいたしかたないことで、あえて否定するつもりはありません。要は生徒一人ひとりの将来がどうなるかきちんと見据えて今を「教育することがより重要です。」と申し上げているのです。ご自分の教育に自信を持たれるのも結構ですが、常に「反省と成果」をお忘れのないようにしていただきたいものです。

通級制度は、例えば理解がやや困難な子にとっては、その子のペースにあわせて学習活動をしていますので、必要不可欠なものだと思われれます。しかし問題はその内容です。ひとり一人にきちんと向き合っているかどうかです。おそらく一生懸命取り組まれていると思われれますが、本人の理解する力などがやや不足しており、そういう結果になっているのではないかと推測されます。そういう時こそ外部の力が役にたつのですが。

一繰り返しになりますが、学校独自では限界があります。ぜひ外の力を補完的に使われてはどうでしょうか。

八田 教師も大学を出てすぐに教壇に立ちますので、子どもの多様性を見極めるのに少し時間がかかると思われれます。例えば、某進学校では授業がやりやすい。それはみんな出来る子どもたちですから授業が進めやすい。これでは、ある面教師とはいえませんが。やや理解するのに時間がかかったり、学校へ行きづらい子、元気がよすぎる子ども達にどう取り組んでいくかが「教師」であり、経験を要することでもあります。

以前某内閣の時に、教員免許を「大学院卒」という案が浮上したことがあります。研修をして見識を深めることは大切なことですが、教育現

場に必要なのは「経験」とチームワークです。一人では何も解決できません。解き方が分からないことは決して恥ずかしいことではありません。大いに悩んでください。私も若い教員時代、当時胃潰瘍に効くと言われていた「甘茶ズルをどれくらい飲んだかが勲章」だと言われたことがあります。そういう経験等を経て成長していくものであり、お利口さんだけでは、「先生」は務まりません。

一八田さんがフリースクールに関わられる動機は何でしたか

八田 若い時に生徒のクラス担任をするのですが、当時不登校という言葉ではなかったものの、学校に来ることが出来なかった子どもがいて、対応として家庭訪問をしたのですが、私の力量不足で学校に戻すことが出来ずに終わり、それをずっと引きずってきておりました。退職したらこのような子どもと関わり合いたいと考えていましたが、フリースクール等は都会にはありましたが、地方にはありませんでした。退職して某所に勤務していましたが、私がやるべきことは違うと考え、どうしたらいいか迷っていたところ、知人からフリースクールをやってみないかと勧めもあり、修業のつもりでやることにしました。理事長さんに東京で面接を受け、開校された経緯をお聞きし、全人教育の実践者だと確信しました。なにしろ評論家ではなく、実際に取り組まれた人のお話なので、感動したわけです。夜回り先生のお話が心に響くのと同じことです。

そして、その1年後小・中生を対象にしたリフレッシュコースを開きました。

一フリースクール開校は何年でしたか

八田 平成22年3月に開校し、最初は高等学校部門で、翌年に小・中学生向けの「リフレッシュコース」を開設しました。高等学校部門を開設したところ小・中学生についての相談があり、私自身開校したばかりで、心の準備ができていなかったものですから、お断りしました。その時の保護者の落胆された電話での声はいまでも忘れることができません。そこで学校名を名乗っておられたので、後日該当校へ連絡をとりましたが、「該当するような生徒はおりません。」との返事でした。それが現実です。そこで、不十分ながらも開設することを決めました。

なにしろその頃は、フリースクールは、「アメリカや東京の話」というくらい地方には関心が薄かったからです。岡山県は先進県でしたが、鳥取県にはなく、教員が退職後「フリースクール」をしたということで、関心が高まり県議会でも紹介されたことがあります。NHKテレビでも放映されましたので、ご覧になられたこともあろうかと思えます。もちろん放送大学島根学習

センター学友会主催で数回講演をさせていただきました。



一本スクールでの印象に残るような出来事がありますか

八田 実は意外と卒業生が来てくれることです。入学当初はそれぞれがいろいろな悩み・痛みを抱えていたのですが立派に成長しそれぞれの目標に進み、女子は家庭を持ち、子どもが生まれて見せに来るので、その姿を見るとつくづく教師冥利に尽きます。男子は男子で就職し、それぞれの力で自立して社会に貢献できている姿には、惚れ惚れするものがあります。私もこの年齢ですので私の人生はこれで良かったのか。幸せとは何かなど自分とよく比較検討することがあります。

その子の「良いところをのばす」という教育の基本を実践しているだけで、大したことをあえてしているではありません。

一卒業生たちがボランティアとして補助に来ることはありますか

八田 それはありません。都市部ではあるようですが。ボランティアには責任が生じません。本当は手伝いに来てほしい卒業生はいますが、そういった生徒はきちんとした職を持っており、スクールへ来ていただける資金的余裕もありません。しかし、在校生に学習活動や行事を手伝ってもらえることはよくあります。本人に自負心が生まれるからです。茶菓程度のお礼で申し訳ないと思っております。

無償ボランティアは聞こえはいいのですが長続きはしません。ほとんどの場合は、有償ボランティアです。鳥取県出身の方がいる県で大規模に学習支援を運営されており、ボランティアは有償です。そんなにたやすい時間給ではありません。テレビで何回か放映されていきましたので、ご存知の方もおありかと思えます。

卒業生はスクールのことをよく知っていますので、将来的には本校で働いてもらえるような運営ができるように頑張りたいと思っております。

一社会に対して訴えたいことは何ですか



八田 フリースクールへの行政側の理解です。特に私の間違った考えかも知れませんが、鳥取県内では東部と西部の行政で理解に温度差があります。フリースクールへ通う保護

者に対してある一定の条件で支援金ができます。授業料について県1/3、市町村1/3、保護者1/3の負担です。これは市町村が決めないと県もだ

さないものであり、市町村でばらつきがあります。支援額も100%支援から2/3支援までいろいろです。鳥取県西部は認可がなかなか下りず、私は何回も担当者をお願いするため、約1年間通いました。結果的には許可が下りましたが、厳しいものがありました。

次に問題なのは理解という面で学校間格差があるということです。ある学校では「不登校の生徒はいません。」といわれるところや、話を聞いてくださるところなどいろいろです。結局学校文化がいまだに残っており、生徒にとっては不幸なことであると言わざるを得ません。

一鳥取県西部の風土として、進学校の〇〇高校へ入るため、中学浪人を集めた△△塾が存在していた関係ですか

八田 確かに某高校を頂点としたピラミッドができており、中学浪人で塾通いとなり、何がなんでも某進学校に入る学力をつけるため保護者・本人は必死です。一方東部は三校に分かれており、バランスが取れています。西部の高校受験熱は異常かもしれません。

私見ですが、教育問題がギクシャクしはじめたのは勉強熱というよりは、社会的風潮やマスコミ等の影響力の方が大きいと考えています。

「金八先生」や他の番組の中で「せんこう」「どげ坐しろ」とか、これで学校が正しく運営されていくのでしょうか。当時こぞって教育行政を批判したのは誰でしょうか。

一八田さんは放送大学には学士入学でしたが

八田 定年退職後、前述しましたように発達障害の学習をするには、特別支援学校教員免許を取るの勉強になると思い入学しました。そして心理学を学ぶことになったわけです。大学院の心理関係は15倍の競争率でしたので、大学受験の若い時代と違って、この年で挑戦するのは無謀だと思い学部生になりました。

ただ教員歴がありましたので、結果的に学部入学でよかったと思います。大学院を出ても利用する場所が見つからないでしょうし、教育に携わっている以上学部生でよかったと思います。

一八田さんの日々のスケジュールはどうなっていますか。また休日の過ごし方についてもお聞かせください

八田 スクールは平日10:00~15:00までは授業があり、その後は地区内で自治会の仕事やいろいろな雑用をしていますので、なかなか自由な時間がとれません。自治会長の仕事として福祉活動等大幅に取り組むことが増え、さらに「防災」が入ってきましたので、戸惑っています。また自治会加入者の減少とあいまって自治会崩壊説までいわれるようになり、四苦八苦の連続です。私のところは、自治会長は輪番ではな

く指名制(推薦制)ですので、私は会計4年、会長12年務め現在に至っております。何しろ会長を20年以上される方は数名おられます。

できるだけ土・日は休むようにしていますが、お話ししたように結構用事がはいらいます。しかしスクールに迷惑をかけたらいけませんので、最近はずり切って家庭訪問等生徒を優先しています。

一八田さんの座右の銘とか尊敬する人物は如何ですか

八田 私には「座右の銘や尊敬する人物」は見当たりませんが、あえて言うのであれば日本のテレビや韓国ドラマの中にあります。愛とは何か、人間とは何かについて改めて問い直すことがあり、大いに感銘を受けています。

そして親父の生き方を参考にすることがあります。と言いますのも、父は、生前結構地域の人に慕われており、当時の話をよく聞くからです。超身近な人物のおかげで今の自分があることに気づかされたものです。40歳位の子どもの私の父から影響を受けており、改めて親父の偉大さに感謝しています。

一最後までですが同窓会へのメッセージはありますか

八田 放送大学で学ばれ大きくなられたわけですので、地域で生かす取り組みをしてほしいと思っております。地域あつての自分であり、一番身近な場所なのですから。生活の中で何か一つ係れば関係は改善されて良い方向へ進むものです。また同窓会も会員相互の親睦の深化を図り、要望を聞かれて期待に応える取り組みをなされれば会員増につながって行くと思います。何事も腹八分で丁度いいとおもいます。それは私の課題でもあります。

在学中、学友会・同窓会ではみなさま方に大変お世話になり、有難うございました。

一長時間有難うございました。機会がありましたら学習センターにお出かけください

(文責：竹下)

地区会員の近況報告 (島根西部地域 2)

卒業後の私



平成16年度卒業 大庭耕助

私が放送大学を卒業したのは、退職して2年後の平成16年、64歳の時でした。その後は自家の農業に戻り今も続けています。

ただ、その間20年経ちましたので様子が変わってきました。

近年の農村は特に中山間地域では、担い手が少なくなり、耕作放棄地が目につくようになりました。そこで、私の地域では、国の勧めにより農事組合法人をつくり経営面積を集約し、圃場も整備し直し、大型農業機械で出来るようになりました。私の家も法人の構成員にはなっていますが、私が農作業できる間は自分で耕作しようと農業を続けています。

我家の農業経営は65歳で息子に譲りましたが、兼業農業なので作業は私たち夫婦が中心です。耕作地は、水田80アール、野菜各種20アール、葡萄6アール、さらに周辺の草刈りが仕事場です。

年を取ってからの農業は良好な体調、体力、運動機能を維持することが大切だと思い、そのことに気を配って生活しています。夜は午後8時には就寝し朝は5時には起きます。毎日の仕事は際限なくありますので、それをすべてやろうとすれば体に無理がかかり健康を害するので、そこをうまくこなせるよう最も気を遣うところです。老化による体力の衰退とどう向き合うか。休めすぎるとすぐに筋力低下や機能低下になり、無理をすると動けなくなるのでその加減が大切だと思っています。この調子でどこまで行けるかが日々頭を過ります。

「卒業後の私」

浜田市 竹本 修



初めて投稿いたします。島根同窓会に誘っていただき、「たたら」を楽しみ拝読しております。早いもので、私が放送大学を卒業してからもうすぐ20年になります。

放送大学は職場の先輩に誘っていただき、仕事をしながら自己研鑽の場としてすぐに入学を決め、仕事に役立つ科目、もっと知りたい科目などを選択し、無事に卒業しました。大学で学んだことは仕事でも役立つことが多く、取得した単位を活用して国家資格も取得しました。50代半ばを迎え、ここ数年、老眼と物覚えの悪さに日々奮闘していますが、若い頃に得た知識や記憶は結構覚えているものだなと実感しています。

放送大学教養学部卒。教養を改めて調べてみました。学問、知識という文字の他に、精神の修養、心の豊かさとなりました。試験を受け、単位を取得したものの、まだまだ本当の意味での卒業はしきれていないなと思いました。自分はまだまだ伸び代だらけであり、これからも色々な

人生経験を積んで教養を身につけ、幅広い知識、精神の修養を通して心の豊かさを得たいと思っています。

現在は、休日には仲間や妻と共に趣味のゴルフを楽しんでいます。新型コロナも落ち着いたことから、旅行で各地へ足を運び見聞を広めることも再開していきたいと思っています。同窓会の行事や活動にはなかなか参加できずにはいますが、皆さんと元気で会える日を楽しみにしております。

「卒業後の私」

大場 裕子

この度は、貴重な経験の機会を頂き、ありがとうございます。島根同窓会会報「たたら」を手にとると、会員の皆様が意欲的に学習し活動されている姿に、元気を頂いています。

私は、保健師として働きながら、学生として今も学び続けています。能登半島地震派遣を経験し、たくさんのことを学んで帰ってきました。放送大学では、心理と教育コースを卒業したことから、被災者の理解につながりそうなテキストを読み返し、現場に出かけました。

能登の方々には、自分の住まい・仕事・ふるさとを地震によって破壊され、様々なもの・ひとを失いながらも、たくましく生きておられました。

出会う中で「マズローの欲求段階」を思い浮かべました。人間の欲求は、生理的欲求・安全の欲求・社会的欲求・承認欲求・自己実現の欲求の5つの階層に分けられ、様々な場面で活用されている考え方です。実際に、避難所の掃除や配膳の手伝いや、外出時に近所を誘って運転手になったり、漁に出て釣れた魚を分け合ったり、屋根が壊れた場所にブルーシートを張るのに手伝ったりされていました。人の役に立てて喜ばれることに喜びを感じ、自分の特技を活かして何か出来ないか考えて動くことで、「より良く生きよう」とされていました。

人生100年時代。様々なことを体験して生きていくことになりましたが、いくつになっても学び続け、より良く生きていきたいと思います。皆様もお元気でお過ごしください。

～同窓会からのお知らせ～



新会員のご紹介

(2023年9月～2024年3月)

2023年度第2学期卒業

- ◎生活と福祉コース 嘉戸 章宏さん
- ◎心理と教育コース 高橋 義子さん
- ◎人間と文化コース 米山 章さん
- ◎心理と教育コース 足立 一政さん
- ◎情報コース 大賀美弘子さん

- 17日(水) 第12回古文書を読む会
- 27日(土) 第17回市民公開講座開催
- 27日(土) 第12回通常総会開催

【5月度】

- 15日(水) 会報たたら原稿依頼準備
- 16日(木) 会報たたら原稿依頼状発送
- 22日(水) 第13回古文書を読む会

【6月度】

- 1日(土) 第27回連合会総会(大学)
- 2日(日) 第27回連合会同窓会交流会
- 2日(月) たたら23号編集作業開始
- 8日(土) 連合会助成金説明会(Zoom)
- 19日(水) 第13回古文書を読む会

ご逝去のお知らせ

2023年9月 佐々木敏夫様
謹んでご冥福をお祈りいたします

◆同窓会の活動日誌◆

(2024年1月～2024年6月)

【1月度】

- 5日(金) 会報たたら印刷所へ
- 13日(土) 会報たたら発送準備作業
- 14日(日) 会報たたら発送作業
- 15日(月) 第3回役員会(Zoom)
- 31日(水) 第9回古文書を読む会

【2月度】

- 6日(火) 会計担当と打合わせ
- 10日(土) 卒業論文発表会
- 20日(火) 会計担当と打合わせ
- 21日(水) 第10回古文書を読む会
- 22日(木) 2学期学位記開催案内
- 24日(土) 学位記開催打合わせ
- 28日(水) 松江警察署講師派遣要請へ

【3月度】

- 6日(水) 第11回古文書を読む会
- 8日(金) 第4回役員会(Zoom)
- 15日(金) 松江警察署講師と打合わせ
- 19日(火) 卒業生用入会資料準備作業
- 23日(土) 学位記会場設営準備
- 24日(日) 2学期学位記授与式
- 24日(日) 2学期卒業を祝う会
- 24日(日) アカデミックガウン撮影会
- 30日(土) 連合会助成金報告書提出

【4月度】

- 2日(火) 会計担当と監査打合わせ
- 6日(土) 会計監査
- 8日(月) 第5回役員会(Zoom)
- 10日(水) 通常総会議案書校正作業
- 11日(木) 議案書印刷製本・発送作業

📮同窓会 当面の行事案内📮

2024年度第1学期学位記授与式
開催のご案内

日時 2024年9月29日(日)10:30～
会場 島根学習センター3階
対象者 2024年度第1学期の卒業要件を
満たした学生・修士修了者の方
※卒業を祝福するため、多数のご参加を
お願いします。

2024年度第1学期卒業を祝う会
開催のご案内

日時 2024年9月29日(日)11:40～
会場 島根学習センター4階
対象者 2024年度第1学期の卒業要件を
満たした学生・修士修了者の方
※卒業を祝福するため、多数のご参加を
お願いします。

2024年度第1学期卒業記念撮影会
開催のご案内

日時 2024年9月29日(日)12:20～
会場 島根学習センター4階
対象者 新規卒業者の方でご希望される
方に、アカデミックガウンを着用
してセミプロ写真家による記念撮
影を開催します。以前の卒業の方
も撮影は可能です。

※ご希望の方は誠にお手数ですが事前に会
長竹下までご連絡をお願いします。

携帯番号 080-3056-0487

E-mail//yasutake@kfz.biglobe.ne.jp